

つながる ひろがる おりなす  
アートには地域の未来を変える力があります



毎年3月に開催する「ARTS MEET OKITAMA」の  
情報をお届けするため「AMO たより」を始め  
ました。皆様に愛される展覧会を目指してい  
きますので、よろしくお願いいたします。



# AMO たより 秋号

## vol.2 2022年10月

公益財団法人 米沢上杉文化振興財団  
よねざわ市民ギャラリー  
TEL 0238-22-6400 FAX 0238-26-0036  
お問い合わせ先  
TEL 0238-26-8000 FAX 0238-26-2660

**ARTS MEET OKITAMA2023 募集開始**  
ご応募お待ちしております！

**応募締切**  
**2023年1月15日（日）必着**

AMO2023 の出品要項が決まりました。

応募の締切日は例年より早いのでご注意ください。なお、詳細は出品要項でご確認ください。

昨年の AMO2022 では、表の通りのご応募、ご来場がありました。AMO2023 では、昨年の数値を上回るよう、皆様と展覧会を盛り上げていきたいと思っております。たくさんのご応募お待ちしております。

| AMO2022 応募数 |     |                            |
|-------------|-----|----------------------------|
| 応募数         | 91名 | 大賞エントリー 60名<br>若手エントリー 14名 |

| AMO2022 来場者・投票数 |        |       |      |
|-----------------|--------|-------|------|
| 来場者数            | 1,909名 | 大賞投票数 | 871票 |
|                 |        | 若手投票数 | 526票 |

※オーディエンスのみの投票数です

応募は、郵送、FAX、メール、持参のほか、「AMO2023 応募フォーム」のQRコードから応募できます。昨年「応募用紙が届いたか、返信がないと不安」という声がありましたので、今年、直接持参以外の方法で応募された方には、担当者から受付完了の連絡を行います。

また、応募用紙には質問・要望等をご記入する欄がございますので、何かご不明な点等ございましたら、お気軽にお問い合わせください。



AMO2023  
応募フォーム

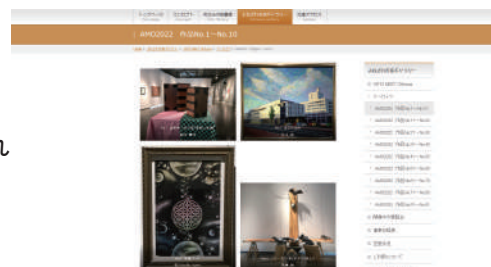
## AMO アーカイブ

ナセBAよねざわ市民ギャラリーのホームページにて、AMOに出品された作品のアーカイブを始めました。

AMO2022の全出品作品を公開しておりますので、ぜひご覧ください。

AMO2022年以前のAMO出品作品を公開しても良い場合は、TEL：0238-26-8000（ギャラリー担当）までご連絡いただけますと幸いです。

アーカイブをすることで、これまで出品した「つくる人」と、現在そしてこれからAMOを「みる人」とを、時間を超えてつなげていきたいと考えています。10年後20年後、置賜地域のアートはどうなっていくのか、その記録として残していき、未来のOKITAMAアートを紡いでいきます。



アーカイブホームページ画面



よねざわ市民ギャラリー  
ARTS MEET OKITAMA  
ページトップ

# 特集

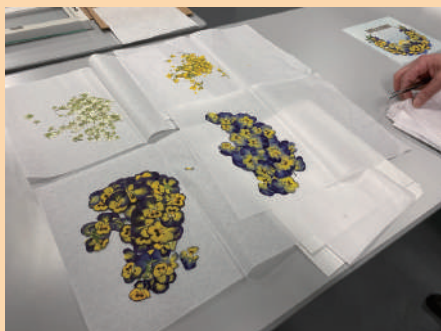
## 「AMO 2022 大賞 佐藤玲子展」に向けて

### 押し花絵のひみつ -春から夏が勝負!? 押し花の季節-

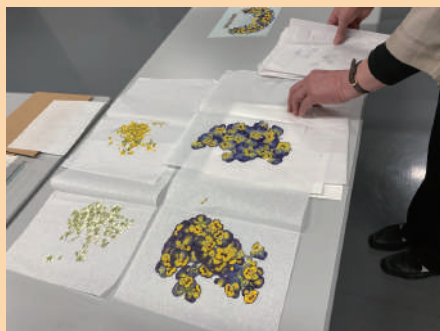
押し花絵の材料は、季節の草花。それらを押し花として十分に乾燥させて使用します。

佐藤さんの制作準備で一番忙しいのは春から夏の植物たちの生き生きと花咲かせる時期。この時期を逃してしまうとその季節の花々に会えるのは来年まで待たなければなりません。佐藤さんは、作品づくりのために欲しい花を育てたり、採集しに行ったりするそうです。その時点で既に頭の中で作品の構想が練られていることに驚きました。日々の様々な蓄積があってはじめて美しい作品が出来上がっていると感じました。

下の写真は、試作品に使用した押し花の数々です。花だけでなく、葉や茎なども作品制作にはとても重要な材料となります。



咲いていた時のように鮮やかな色を残すのも佐藤さんの長年のテクニックによるもの。



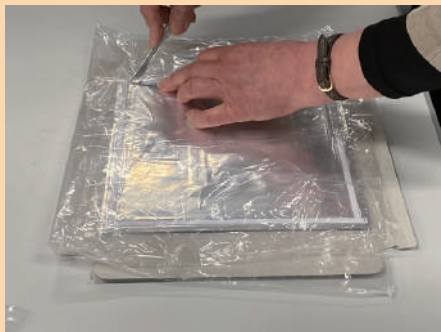
自宅には、押し花の膨大なストックがあるそうです。



様々な形、大きさ、色彩の植物たちがどんな作品に使われ、どんな表情を見せるのか・・・



押し花をえらび、慎重に台紙にかさねていきます。



密封作業は仕上げの重要な作業

制作に入ると、手際よく作業を進める佐藤さん。押し花を下から上（作品表面）に重ねて行きます。同じ種類の花でも一つ一つ表情、色彩が微妙に異なり、それを見極めて台紙に置いていく様子は、絵の具を押し花に代えて描いていく様でした。最後の密封作業は、作品の酸化を防ぎ、花の色鮮やかさを保つための重要な工程です。作業を終えると「簡単でしょ?」という佐藤さん。とても素人には真似できない作業でした。

試作品は、一辺 20 cm ほどの作品でしたが、植物採集、押し花制作などの準備工程を知ると佐藤さんの作品への想いをさらに深く感じる事が出来ました。作品の中に季節や植物の生命の面影を封じ込めた「押し花絵画」を是非多くの方に知っていただく機会に AMO なるように、佐藤さんと一緒に準備をすすめていきます。

# 新作品!

大賞展では約 40 点の作品を展示する予定です。作品のほか、押し花を応用した雑貨や小品なども紹介したいと思います。

また、佐藤さんは大賞展のために新作を 3 点制作しています。それぞれタイトルは『初夏の流れ』、『佳き日』、『ゆめ一夜』です。大賞展までお楽しみにお待ちください。

ARTS  
MEET  
OKITAMA  
2023